生徒による

# 科技高 いきもの記

Vol.76 2023.4.25

2年1組 佐藤 暖哲（はるあき）

## ツミ観察記録①
## 今年もツミがやってきた

**ツミ** ***Accipiter gularis*** 日本最小のタカで、主に夏鳥として渡来する。昔は山奥にしかいないような珍しい鳥だった（“幻の鳥”と呼ばれていた）が、近年は市街地でもよく見られるようになった。市街地の方が森林に比べて獲物となるスズメが多く、狩りをしやすいのだろうか。東京都ランク：絶滅危惧IB類。ちなみに僕の一番好きな鳥。（写真は全て2023.3.27に撮影）

↑成鳥オス。全長27cmでメスより一回り小さい。赤い目と橙色の腹部が特徴。

↑成鳥メス。全長30cmで目の色は黄色。腹部にはオスよりもはっきりとした横縞がある。

※普段は「ピョーピョピョピョ」と尻下がりに鳴くのだが、今回のように音が下がらず連続的な鳴き声は“餌乞い（えこい）”と言って、メスがオスに餌をねだる声だそうだ。鳴き声については言葉だけでは分かりにくいと思うので、「ツミ 鳴き声」で検索して実際に聞いてみよう。

こんにちは、２年のハルアキです。鳥とカメラが好きで、今は猿江公園の鳥の調査を行っています。今回初めていきもの記を書きます。

さて、3月下旬、僕と同じく鳥好きのゼンが「**猿江公園でツミの声が聞こえる**」と教えてくれた。**“ツミ”**というのは小型のタカのことで、毎年この季節になると猿江公園にやってくる。ツミは僕が大好きな鳥なので、会いに行くしかないでしょ！ということで早速向かった。公園に入るとすぐに「ピョピョピョピョ…（※）」と甲高い声が聞こえてきた。ツミだ！まさかこんなに早く出逢えるとは！鳴き声を頼りに辺りを探してみると、人通りの多い道沿いの木に止まっていた（しかもかなりの近距離…!!）。意外と人に近いところにいてビックリ。どうやら警戒心はそんなに強くないようだ。おかげでじっくりと観察することが出来た。

数日後、再び公園に来ると、ツミのメスが数日前と同じ木に止まっていた。いつも同じ場所にいるのだろうか。オスが獲物を持って来るのを待っているのか（この時期はオスがメスの分の餌まで用意する）、しばらく動きはない。ようやく動いたと思うと、普段は止まらないような細い枝へと飛び移った。何をするのか気になって見ていると、突然目の前にある**枝を折った**。この瞬間、思わず口角が上がってしまった。**もしかして巣を作るかも?!**と思ったからだ。おそらく巣の材料を集めるために枝を折ったのだろう。そして、巣作りをするということは**繁殖の可能性がある**ということだ！これを聞いて、つがいでいるんだったら繁殖をするのは当然では？と思う人もいるかもしれないが、実は昨年は猿江公園に来たにも関わらず、繁殖を行わなかった（別の公園に行ってしまった）。つまり、公園に来たとしても、必ずしも繁殖をするとは限らないのだ。それに加えて、年毎に繁殖地を変えることだってある。実際、僕が5年前に観察していた（猿江公園ではない）ツミだって、繁殖は成功したが次の年にはいなくなってしまった。だから、今年もツミが猿江公園に来てくれた上に、繁殖の兆しまで見られたことは**本当に嬉しいこと**なのだ。

**今年こそ繁殖が上手くいって欲しい。**そう願いながらこれからも観察を続けていこうと思う。それにしても、猛禽類をこれほど間近に見られることは中々ない。皆さんも是非この機会にツミの様子を見に行って欲しいが、観察するときは無理に近付かず、少し離れたところからそっと見守って欲しい。

（文・写真：佐藤暖哲）

↑羽繕いをする様子。顔や尾羽、爪など細かいところまで手入れをする。これが可愛すぎて一生見ていられると思うのだが、もしかして僕だけ…？

↑嘴を枝に擦る様子。獲物を食べた後に嘴に付いた血や肉片を取るために行う。

↑巣の材料となる木の枝を折る様子。小柄なツミでも折れるような細い枝を選ぶ。